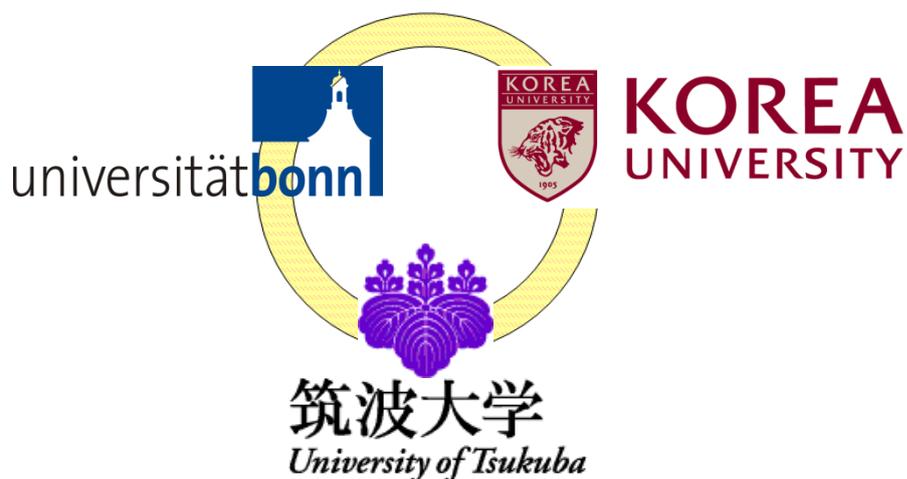


全く新しい学位プログラム（修士課程）です！



日独韓3大学共同 学位（修士）プログラム

TEACH

TRANSNATIONAL EUROPEAN AND EAST ASIAN CULTURE AND HISTORY



TEACHとは?

TEACHとは、**T**ransnational **E**uropean and **E**ast **A**sian **C**ulture and **H**istory (ヨーロッパと東アジアのトランス・ナショナルな文化と歴史)の略称です。

筑波大学と、ドイツのボン大学、そして韓国の高麗大学校が共同で運営する、人文社会科学系修士課程院生のための、全く新しいコンセプトによるプログラムです。所属大学(ホーム校)に加えて、参加している今一つの大学(第一ホスト校)からも修士号を取得するデュアル・ディグリー・プログラムです。定員は1学年につき各大学から6名(合計18名)です。

筑波大学・ボン大学・高麗大学の3大学を移動しながら

3大学の学生たちと一緒に2年間勉強すると

2つの修士号(Dual Degree)が取れる!

TEACHが目指す人材像

日本だけでなく世界の大学で、学術の「国際化」が急速に進んでいます。「ボローニャ・プロセス」を進めるヨーロッパでは、デュアル・ディグリーのプログラムも珍しくありません。そうした中でも、日独韓三大学における二つの学位取得を目指すTEACHは、日本国内には他に例を見ない独創的なプログラムです。

TEACHは英語能力だけを備えていればよいというような「国際人」を育てるのでもなければ、ドイツ専門家や韓国スペシャリストを育てるのでもありません。TEACHは、高い語学力と異文化間の交渉力を備え、自文化を相対化して批判的に見る能力を持ち、広い知識と深い洞察力と発信力を備えた人材の養成を目的としています。TEACHの学生が目指すのは、アジアをよく知るヨーロッパ・スペシャリストであり、またヨーロッパを知悉するアジア専門家です。

TEACH生の三大学間キャンパス移動(「渡り鳥」プラン)

TEACH生は、入学直後の第一学期はホーム校で授業を受け、その後3学期間は、三大学の学生が一堂に会して同じキャンパスで授業を受けるために、学期毎に三大学を次のように移動します。

	高麗大生	筑波大生	ボン大生
2013:春学期	高麗大(ホーム校)	筑波大(ホーム校)	
2013:秋学期	ボン大学		
2014:春学期	筑波大学		
2014:秋学期	高麗大学		
2015:春学期			ボン大(ホーム校)

修了後の進路

TEACHで育つ「日韓、日欧関係のスペシャリスト」たちは、修了後、各国の政治・経済のさまざまな分野やメディア、また各企業の国際担当部局などで活躍することが期待されています。もちろん、さらに博士後期課程に進学して研究者を目指すこともできます。

TEACHで学ぶことは？

TEACHの大枠テーマ

TEACHの授業では大枠のテーマとして、「日独韓3国が共有する近代化の経験」と「地域統合」を取り上げます。近代史を振り返ることで今後の発展を見据え、またアジアとヨーロッパを比較する中で欧州統合やアジアの隣国関係を考えます。

TEACH コア・カリキュラム（合計 27 単位の共通必修科目）

TEACH生は全員、TEACHが提供する以下の科目を3大学それぞれで3単位ずつ履修します。

	高麗大で受講	筑波大で受講	ボン大で受講
専門外国語演習（9単位）	3単位	3単位	3単位
地域研究（9単位）	3単位	3単位	3単位
ジョイント・リサーチ・セミナー（9単位）	3単位	3単位	3単位

- 「専門外国語演習」は、日本語母語話者の場合、ドイツ語か韓国語です。
- 「地域研究」は、日本、韓国、ドイツ、（または東アジアやヨーロッパ）に関する歴史、文化、政治、社会を詳しく学ぶ授業です。「渡り鳥」として訪れる大学のある地域の社会や文化について詳しく扱います。
- 「ジョイント・リサーチ・セミナー」は、すべての参加大学のTEACH教員メンバーによって共同で準備され、テレビ会議等も利用しながら運営・開講される特別なセミナーです。学期毎に「地域統合論」「比較文化論」「国際関係論」の3テーマを予定しており、参加学生たちは共同で研究・討論しながら、実習や短期間のインターンシップ、少人数での自主研究等も計画しています。各学期末には外国語で「ジョイント・リサーチ論文」を提出します。これらの論文を毎学期着実に書いていくことで、その後の第二修士論文につながります。
- 筑波大学からTEACHを選択した院生は、これらのTEACH独自に提供されるプログラムに加えて、所属専攻分野が認定する専門科目を3大学において9単位履修します。
- 授業で使う言語は、原則としてその大学の第一公用語ですが、理解が難しい人がいるときは、日・独・韓・英語のどれかを使い、みんなで助け合ってコミュニケーションします。

修士論文

修士論文で扱うテーマは、上記の大枠テーマだけに限りません。より広く、TEACHの対象である「日独韓」という文化圏と、所属専攻分野との接点となる領域の中から、TEACH生は指導教員たちの指導の下に、自由にテーマを選んで執筆することになります。ホーム校に第一修士論文を、第一ホスト校に第二修士論文を提出しますが、両者の内容はある程度重なっていかまいません。二つの修論の執筆に向けて、ホーム校と第一ホスト校の双方の指導教員による指導を受けることになります。

TEACHについてのQ&A

Q: どうすればTEACHに参加できますか？

A: TEACH への応募資格は以下のとおりです。

- 学士号 (BA) を取得していること (卒業見込みを含む)
- 筑波大学人文社会科学研究科の中の、TEACH プログラムに参加している専攻の入学試験に合格していること (どの専攻を選べばよいかについては、下記の連絡先にご確認ください。)
- ドイツ語または韓国語のどちらか一つが既習で、入学後短期間でボン大学または高麗大学で勉強を始められ、また論文を書ける語学力があること (もう一つの言語はできなくても大丈夫です。)
- 通常の修士課程における研究に加えて、長期の外国大学での滞在や、ドイツ・韓国のTEACH 生との交流やコミュニケーションを積極的に行なう意欲があること

具体的には、2013年1月9日応募締め切り、2月実施の「筑波大学人文社会科学研究科」の入学試験で、TEACHに参加している「専攻」に受験し、合格することが第一歩です。TEACHへの参加希望者は、合格発表直後に手続きをすることになります。



高麗大学校



Q: 費用はどのぐらいかかりますか？

A: 授業料は通常の筑波大学の大学院生と同じです。ボン大学・高麗大学では授業料・入学料などは免除される上、ボンおよびソウルへの1往復分の渡航費は支給される予定です。ただし生活費 (現地滞在費) や外国での医療保険・傷害保険などは、奨学金がない場合は各自の負担となります。

ボン大学



TEACH 第2期生と一緒にプログラムに参加しませんか？
TEACH についてのさらに詳しい情報は
<http://trans.hass.tsukuba.ac.jp/teach/ja/>
をご覧ください。また、お問い合わせは
teach-info@germanistik.jp
までお寄せください。

連絡先：筑波大学 人文社会系 TRANS 事務局
〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1